



9千人以上の 水を備蓄すべきでは

中村 文武議員

新たな備蓄方法を検討していく

市長

問 総人口を基準に水を備蓄すべきでは。

答 平成26年愛知県防災会議で公表された想定避難者9千人を基準にしている。

問 9千人の4地区内訳は。

答 内訳はない。

問 各地区の備蓄量は。

答 佐屋地区12カ所5万9000本、立田地区7カ所3万3500本、八開地区5カ所3万1500本、佐織地区10カ所5万本だ。

問 500mlの本数が。

答 500mlだ。

問 津島市は3校に40tの貯水タンクがある。今後7校まで増やす。9千人想定以上の水を備蓄すべきと改めて伺う。

答 予定通り進める。想定外の時は、県・国の支援を受けていきたい。

備蓄は大事な事。本市はかなり分散して備蓄しているが、災害はいつ起こるか分からない。各自で備えることも必要だ。

また、今までの固定観念に囚われず新たな備蓄方法は当然考えていかなければならない。一方で、行政で全てが賄えない。市民・各種団体と協力し、進めることが大事だ。

問 液状化で二時的に交通遮断はされるが、長期的には遮断されず、物資供給格差は生じないとのこと。しかし、液状化は予想できない。また、浸水すれば船で行くしかない。長期的に交通遮断しないとは、どれくらいの期間か。備蓄は耐えられる想定か。

答 備蓄品の考えは、3日間が一般的だが、余裕をみて1週間の考えもある。1週間程度で解消されればと考える。これも、県・市と連携しながら

対策を取っていくべきだ。本市以外への避難も考えてほしい。

問 交差点の安全対策は。

答 事故が多発しているため、津島警察署は重点的に交通安全対策すべき交差点としている。地域の意向を確認し、今後安全対策を行う予定。

清林館高校北東交差点の安全対策は



▲清林館高校北東交差点(雨の朝)

その他の質問

●部活動の時間及び地域移行の進捗は